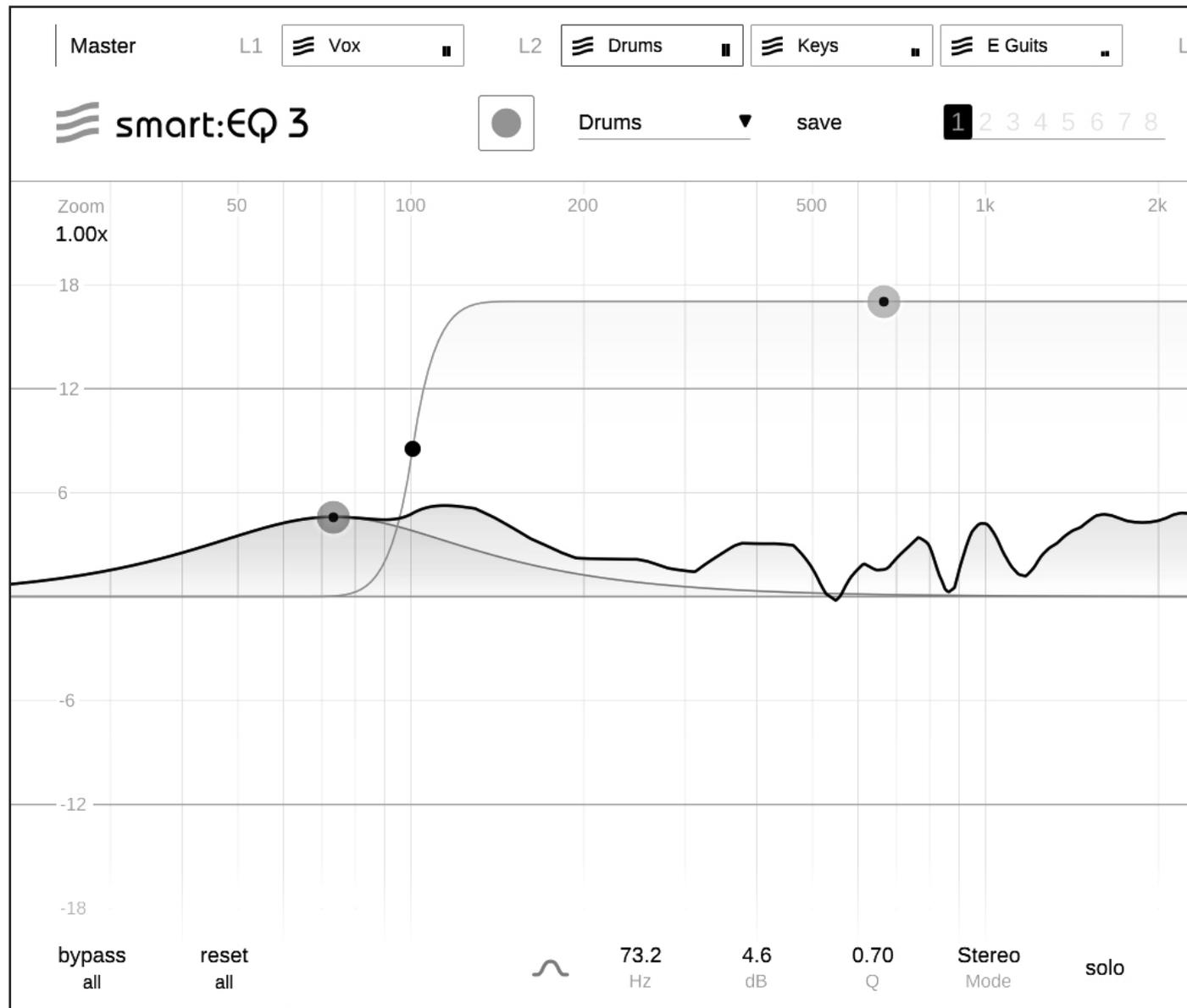


# smart:EQ3 マニュアル

インテリジェントイコライザー



# 目次

smart:EQ 3へようこそ	3
インストール	4
オーソライズ	5
ユーザーインターフェイス	6
標準フィルターでの操作	7
フィルターパラメータセクション	8
smart:filter	9
smart:filterのコントロール	10
プロファイルを使った操作	11
プロファイル管理	12
グループでの操作	13
グループ表示	14
インスタンスをグループに追加	16
レイヤーで階層を作る	17
ビジュアルコントロール&モニタリング	19
アナライザー	20
ステートとプリセット	21
M/S処理とアウトプット	22
設定	23
プロファイル管理およびライセンス	24



# smart:EQ 3へようこそ

smart:EQ 3は、AIが搭載されたEQで、単一のオーディオトラックのスペクトルバランスを作成し、インテリジェントなクロスチャンネル処理により複数チャンネルの透明なアレンジを確立する支援をします。

smart:EQ 3は、ワンクリックで任意のオーディオトラックを分析し、邪魔なレゾナンス、不要なノッチ、スペクトル全体のアンバランスなど、スペクトルの欠陥を修正することができます。算出されたsmart:filterはユーザーのニーズに合わせてクリーンで精密なサウンドを実現させ、さらなるクリエイティブなステップのための理想的な基盤となります。

smart:EQ 3は、最大6つのチャンネルのグループビューも提供し、乱れたりぶつかったりする周波数領域をインテリジェントに補正するクロスチャンネル処理も行います。複数のオーディオトラックを3レイヤーの音の階層に配置することができます。各トラックを分析し、マスキング効果を検出・修正します。smart:EQ 3のAIアルゴリズムは、スペクトルミキシング技術を使用して、各トラックが全体的に透明な配置の中で割り当てられたスペースを確保できます。

smart:EQ 3で、イコライジングの新たな可能性をお楽しみください!

# インストール

## システム要件

CPU	Intel Core i5
RAM	4GB
オペレーティングシステム	Windows 10 (64ビット) Mac OSX 10.12以上



プラグインを正常にインストールするためには、管理者権限が必要です。

## Windows

インストールを開始するには、ダウンロードしたzipファイルを解凍してください。sonible\_smarteq3\_1.0.0.zipをハードディスクに保存し、インストーラーを実行してください。

インストーラーがsmart:EQ 3をパソコンにインストールするために必要な手順を案内してくれます。

インストール時に、smart:EQ 3のどのバージョンをインストールするかを選択できます。また、VSTバージョンのカスタムインストールフォルダを選択するか、インストーラーが提案するデフォルトフォルダを使用することができます。

VST3版とAAX版のプラグインは、それぞれのデフォルトフォルダに自動的にインストールされます。

### デフォルトフォルダ:

#### VST3

C:\Program Files\Common Files\VST3\

#### VST

C:\Program Files\Common Files\VST\

#### AAX

C:\Program Files\Common Files\Avid\Audio\  
Plug-Ins

## Mac OSX

インストールを開始するには、ディスクイメージsonible\_smarteq3\_mac\_1.0.0.dmgを開いてください。これによりイメージがマウントされ、インストールパッケージの内容が表示されたFinderウィンドウが開かれます。

smart:EQ 3をシステムにインストールするには、インストールファイルsmarteq3.pkgを実行してください。

インストーラーはsmart:EQ 3をコンピュータにインストールするために必要な手順を案内します。smart:EQ 3はオーディオプラグインのデフォルトの場所に自動的にインストールされます。

### デフォルトフォルダ:

#### Audio Unit

/Library/Audio/Plug-Ins/Components/

#### VST

/Library/Audio/Plug-Ins/VST/

#### VST3

/Library/Audio/Plug-Ins/VST3/

#### AAX

/Library/Application Support/Avid/Audio/  
Plug-Ins/

# オーソライズ

## ライセンス方式

ライセンス方式は、マシンベースとiLok(USB dongle)の2種類から選択可能です。

www.sonible.comでユーザーアカウントを作成し、製品を登録することで、ダッシュボードにまだ表示されていない製品のプラグインアクティベーションを管理することができます。

## マシンベース

ライセンスキー1つでsmart:EQ 3を、固有のシステムIDを持つ2台のコンピュータにインストールすることができます。これらのシステムIDは、ライセンス認証の際に登録されます。

同じライセンスを複数のユーザーで使用することができますが、各ユーザーが自分のアカウントでsmart:EQ 3製品版のロックを個別に解除する必要があります。

システムIDが変更された場合(例:ハードドライブの交換など)、sonibleユーザーアカウントのダッシュボードで該当するシステムIDの隣にあるプラグインの取り消し/アクティベート(revoke/Activate)を行うことができます。

## iLok

1つのアクティベーションをiLokに転送したい場合、まずプラグインがsonibleユーザーアカウントに登録されていることを確認します。ダッシュボードのプラグインの横にある「transfer to iLok」ボタンをクリックし、指示に従って操作してください。

注意: 第1世代iLok dongleとiLokクラウドは現在サポートされていません。

## ロック解除

smart:EQ 3のライセンスをオンラインで購入された方には、ライセンスキーをメールでお送りします。

## マシンベースでのロック解除

smart:EQ 3を初めて起動すると、有効なライセンスキーでsmart:EQ 3のロックを解除するよう求める通知ウィンドウが表示されます。

登録作業を開始する前に、パソコンがインターネットに接続されていることを確認してください。

ライセンスキーを入力して、「register.」をクリックします。プラグインは、ライセンスが有効かどうかを確認するために弊社サーバーと通信します。ライセンスが有効であれば完了です。お楽しみください!

## iLok

ライセンスをiLokに転送した場合は、iLokをコンピュータに接続するだけでプラグインは自動的に登録され、お楽しみいただけます!

If you don't receive the email within minutes please check your junk folder first before contacting our support ([support@sonible.com](mailto:support@sonible.com)).

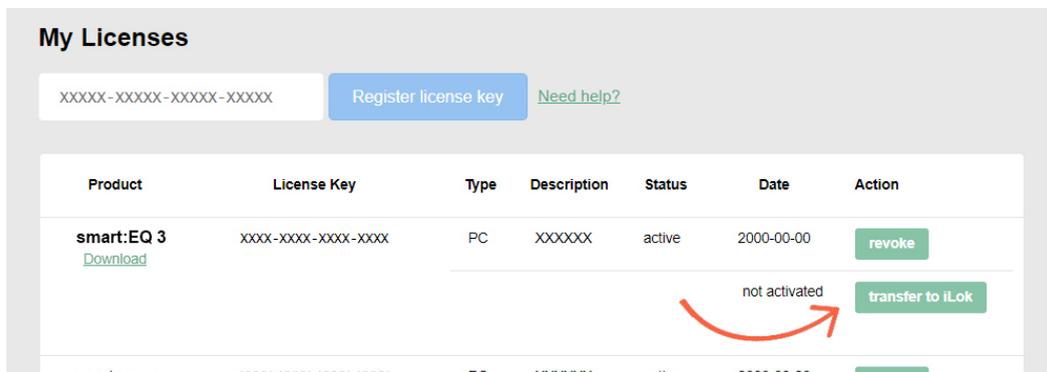
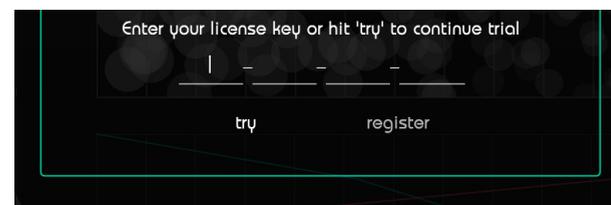
## 体験版

デモモードでsmart:EQ 3を実行するには、「try」をクリックするだけで、数日間、制限なくsmart:EQ 3を使用することができます。(現在のsmart:EQ 3のデモ期間については、弊社ウェブサイトをご参照ください。)

デモ期間が終了した場合、プラグインを継続して使用するためには正規ライセンスを購入する必要があります。

## インターネット接続の条件

sonibleプラグインは、試用期間中と最初のライセンス認証時にのみインターネットに接続する必要があります。試用期間中は、プラグインを使用するたびにインターネットに接続する必要があります。プラグインのライセンスが正常にアクティベートされると、インターネット接続は不要になります。



# ユーザーインターフェイス

## グループ情報

グループビューに切り替えもしくは、グループの名前を変更します。

## 学習セクション

学習プロセスを開始、プロファイルを選択、カスタムプロファイルを保存します。

## ステート

最大8つのステートを使用して、オーディオ素材の異なるセクションのパラメータ設定を保存できます。



## アナライザー

現在のシグナルやグループ内の他のシグナルに対してアナライザーを有効にします。

## バイパス&リセット

処理を選択的にバイパスし、パラメータをリセットします。

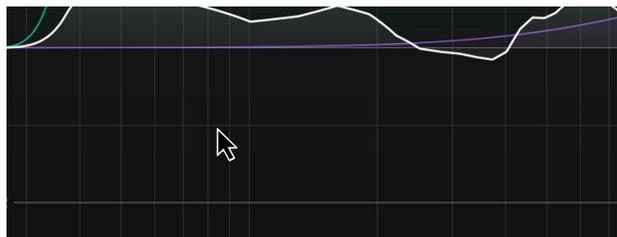
## フィルターパラメータ

現在選択されているフィルターのパラメータをモニターしコントロールします。

## 出力セクション

グローバルM/S設定と出力ゲインをコントロールします。

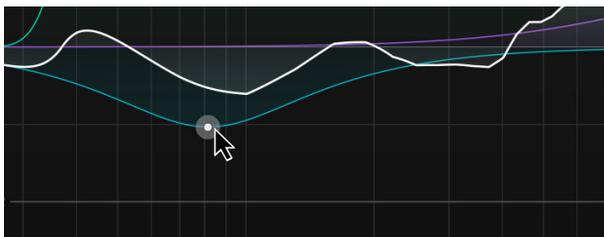
# 標準フィルターでの操作



## フィルターの追加・削除

特定の位置に新しいフィルターを追加するには、イコライザーの表示内の任意の場所をダブルクリックするだけです。

フィルターを削除するには、フィルターポイントをダブルクリックするか、フィルターウィジェット内のごみ箱アイコンを選択します。



## フィルターパラメータのコントロール

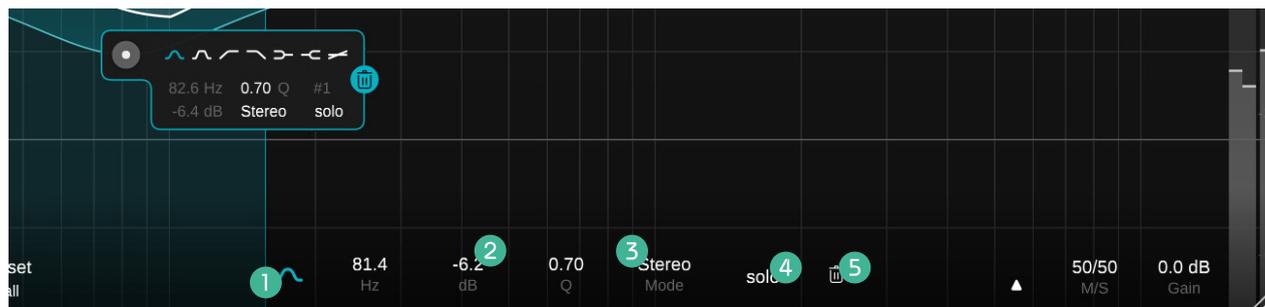
水平・垂直方向にドラッグ	周波数・ゲインの変更
クオリティ変更	alt+ドラッグまたはマウスホイール
周波数をロック	シフト+ドラッグ
ソロバンド	cmd+ドラッグ(Mac) / ctrl+ドラッグ(Windows)
フィルターの削除	ダブルクリック
フィルターウィジェットを開く	フィルターポイントを右クリック



## フィルターウィジェット

フィルターポイントを右クリックして、フィルターウィジェットを表示します。ウィジェットでは、フィルタータイプの変更やソロ再生、削除ができます。コントロール可能なパラメータの詳細なリストについては、次のセクションを参照してください。

# フィルターパラメータセクション&ウィジェット



## 1 フィルタータイプ

クリックで標準フィルターのオンオフを設定できます。右クリックでは別のフィルタータイプを選択できます。

## 2 フィルターパラメータ

全ての標準フィルターのパラメータをモニターし、変更することができます。パラメータの変更は、値を上下にドラッグするか、値を入力して行います。ダブルクリックするとパラメータは初期値にリセットされます。

## 3 処理モード

フィルターの処理モードを選択します。ステレオ、ミッド、サイドのいずれかを選択します。フィルターがミッドまたはサイドモードに設定されると、すぐにイコライザーディスプレイ内のカーブが2つのカーブに分割されます(黄色は現在のサイド信号のカーブを示し、白はミッド信号のカーブを示します)。

## 4 ソロ

現在選択されているフィルターの周波数範囲を聞くことができます。

注意:設定メニュー(23ページ)で「solo on touch」というオプションを有効にすることができます。有効にすると、それぞれのポイントを動かした時に、プラグインが自動的にフィルターをソロにします。

## 5 ごみ箱

ごみ箱アイコンをクリックすると、フィルターを削除できます。

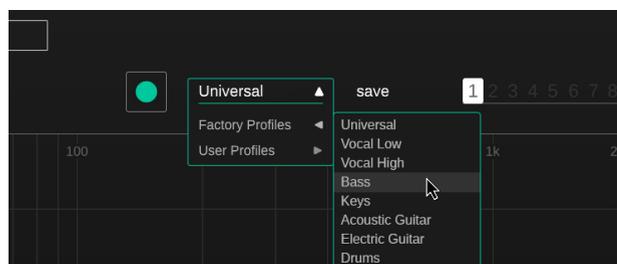
## 6 フィルター番号

DAW内のオートメーションで使用する際のフィルターバンド番号を示します。

# smart:filter

smart:EQ 3の中核をなすのがsmart:filterです。smart:filterは、入力信号を分析することで、周波数スペクトルのどの部分に注意を払う必要があるかを学習します。スペクトルのアンバランスを補正するためのフィルターカーブを自動的に提案します。

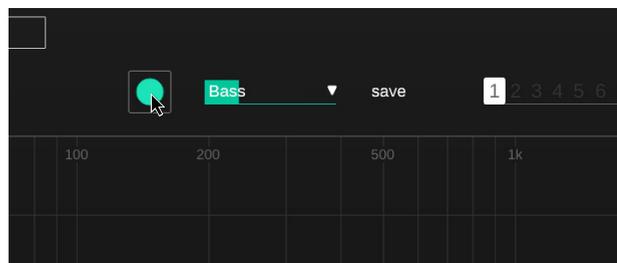
有効化すると、イコライザーの表示内に緑色のカーブが追加で表示されます。これは標準フィルターに似ていますが、実際は計算されたsmart:filterによるカーブです。



## ステップ1

プロフィールを選択

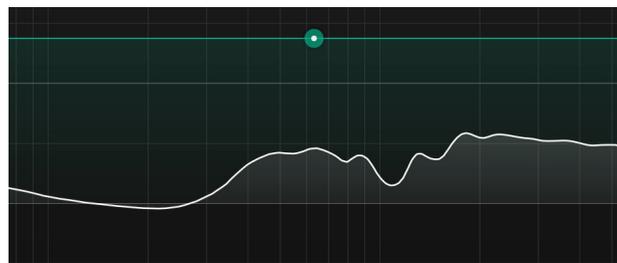
プロフィールは、smart:EQ 3の処理を特定のサウンドソースに適合させるものです。「Universal」プロフィールで学習プロセスを開始し、後でより特殊なプロフィールに切り替えることができます。詳しくは、「プロフィールを使った操作」(11ページ)を参照してください。



## ステップ2

オーディオ再生&学習開始

smart:EQ 3の学習プロセスには、オーディオ信号の入力が必要です。再生を開始したら、緑色の録音ボタンをクリックしてください。脈打つ録音アイコンとプロフィールドロップダウン内の進捗バーが、信号から学習していることを示します。



## ステップ3

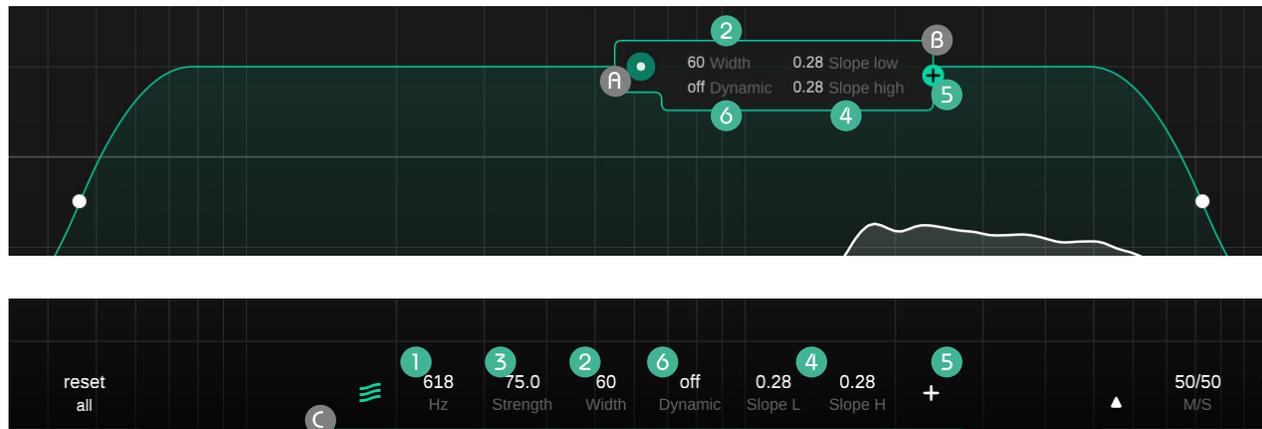
完了!

学習プロセスが終了すると、smart:EQ 3は修正するsmart:filterを適用します。これは、緑のカーブでコントロールすることができます。

# smart:filterのコントロール

緑色のカーブを使用して、異なる周波数領域で計算されたsmart:filterの影響をコントロールすることができます。さらに、フィルターをダイナミックモードに設定して、継続的に適応させることができます。

緑のカーブの形状と位置は、インタラクティブポイント **A**、smart:filterウィジェット **B** (ポイントを右クリックして拡張可能) またはパラメータセクションを使用してコントロールすることができます **C**。



## 1 中心周波数

smart:filterを適用する周波数領域を選択するには、緑色のポイントを左右に移動させるか、パラメータセクションで特定の値を設定します。

## 2 幅

緑のポイントにカーソルを合わせてマウスホイールを動かすと、カーブの全体の幅を変更できます。また、カーブの左右にある小さな白いポイントを水平に動かすか、smart:filterのパラメータセクションまたはウィジェットで値を設定することで、カーブの幅を広げることができます。

## 3 インパクトレベル

smart:filterの影響を増減させるには、緑色のポイントを上下に移動させます。パラメータセクションで特定の値を設定することもできます。

## 4 スロープ

カーブの左右にある小さな白いポイントにカーソルを合わせ、マウスホイールを使ってそれぞれのスロープを変更します。smart:filterのパラメータセクションまたはウィジェットで、LowとHighのスロープを設定することもできます。

## 5 2つ目のカーブを追加する

異なる周波数領域でsmart:filterの設定を使い分けたい場合は、2つ目のカーブを追加することができます。smart:filterウィジェットまたはフィルターパラメータセクションでプラスアイコンをクリックすると、現在のカーブが分割されます。

プラスアイコンの代わりに表示されるごみ箱アイコンをクリックすると、2つ目のカーブを削除することができます。

## 6 ダイナミックアダプション

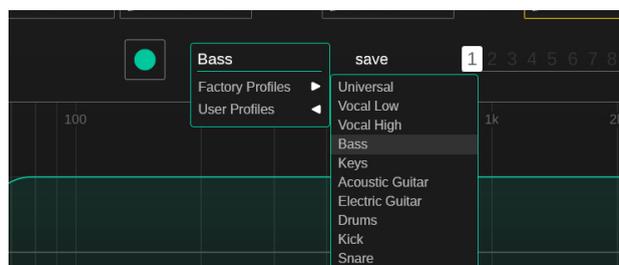
smart:EQ 3には、計算されたsmart:filterをトラックの全長にわたって入力されるオーディオ信号に対して動的に適応させるオプションがあります。ダイナミックアダプションの量は、フィルターウィジェットまたはパラメータセクションのいずれかでコントロールできます。

ダイナミックアダプションが有効な場合、smart:EQ 3はオーディオ信号を継続的に分析し、それに応じてsmart:filterを変更します。これにより、異なるオーディオコンテンツを扱う際に、最大限に一貫性を維持することができます。

# プロファイルを使った操作

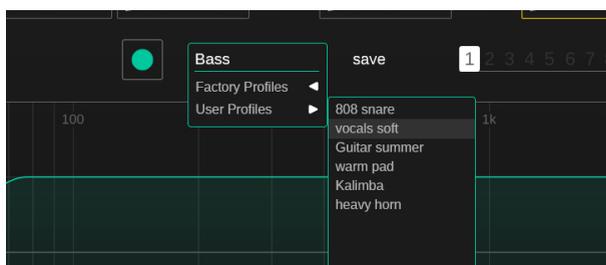
プロファイルは、特定のサウンドソースに対してsmart:EQ 3の学習プロセスを開始させます。異なるプロファイルを使用することで、入力信号の性質に応じたプラグインの処理をより集中的に行うことができます。

smart:EQ 3には、一般的なソースシグナル用に設計されたプロファイルのリストが用意されています。また、ファクトリープロファイルをベースに独自のカスタムプロファイルを生成し、共有することも可能です。



## ファクトリープロファイル

ファクトリープロファイルは、特定のソースシグナルに対してsmart:EQ 3の処理を最適化するための出発点です。



## カスタムプロファイル

あるプロファイルに従って計算されたsmart:filterが自分の好みに合わない場合、カスタムプロファイルを簡単に生成して、今後の学習プロセスに利用することができます。

### ステップ1

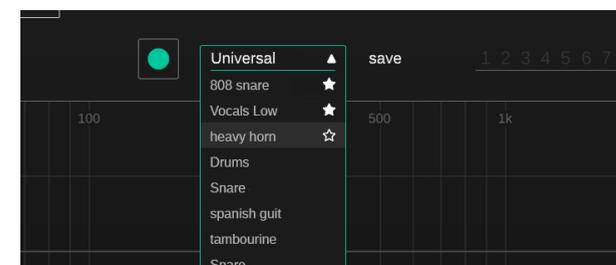
smart:filterをあらゆるプロファイルに基づいて学習させます。

### ステップ2

標準フィルターで、好みに合わせてサウンドを調整できます。

### ステップ3

プロファイルのドロップダウンの横にある「save」をクリックし、新しいプロファイルの名前を入力します。

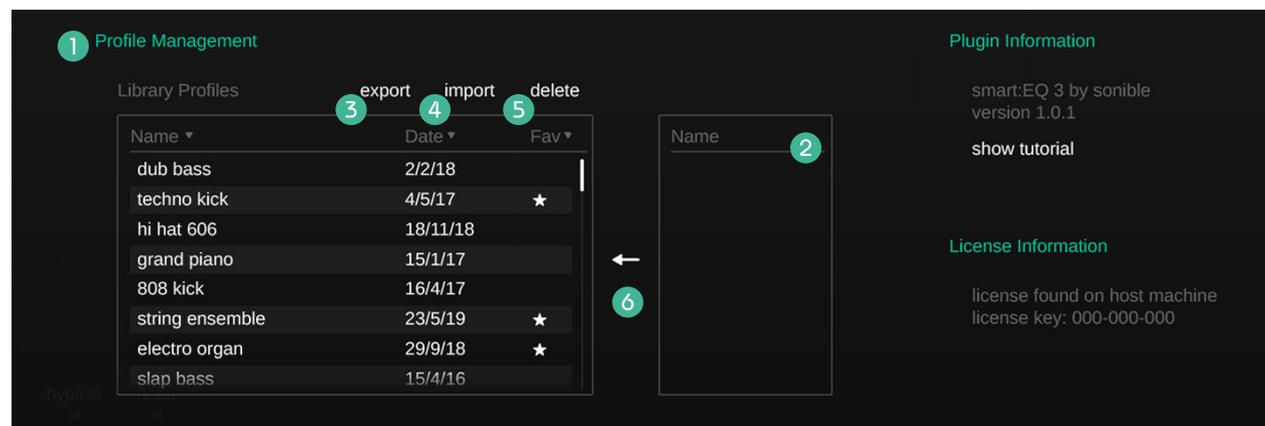


## 最近使ったプロファイルとお気に入り

ワークフローをスピードアップするために、最近使ったプロファイルの上位10件がプロファイルのドロップダウンメニュー内に表示されます。さらに、最大5つのプロファイルをお気に入りとしてマークすることができます。最近使用したプロファイルのリスト内の名前にカーソルを合わせ、右にある未チェックの星アイコンをクリックします。

# プロフィール管理

一度作成したカスタムプロフィールは、別のセッションで使用したり、友人と共有したりすることが簡単にできます。全てのカスタムプロフィールは、smart:EQ 3の設定ページで管理できます(23ページ参照)。



## 1 プロファイルライブラリ

システム上の全プロフィールの一覧です。名前順や日付順で並べ替えることができます。

## 2 未保存のプロファイル

セッションで現在使用されていますが、ローカルライブラリの一部ではない全てのプロフィールのリストです。

## 3 プロファイルのエクスポート

カスタムプロフィールを共有するには、プロフィールを選択し(プロフィールライブラリ内)、「export」ボタンをクリックします。ここで、プロフィールのファイル名と保存場所を選択することができます。プロフィールのファイル拡張子は「.spf」になります。

## 4 プロファイルのインポート

誰かがあなたとプロフィールを共有している場合、そのプロフィールをあなたのローカルライブラリに簡単にインポートすることができます。「import」ボタンをクリックし、プロフィールを参照します。プロフィールを確認すると、プロフィールがローカルライブラリに保存されます。

## 5 プロファイルの削除

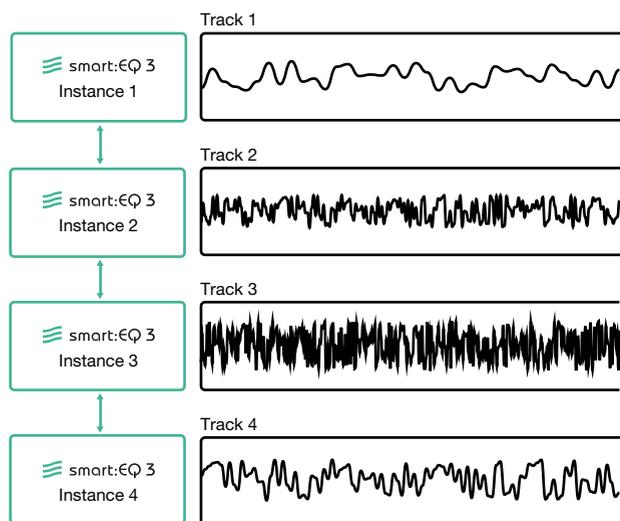
ローカルライブラリからプロフィールを削除したい場合は、プロフィールを選択し、「delete」ボタンをクリックします。プロフィールの削除は元に戻せませんのでご注意ください。

## 6 プロファイルの転送

未保存のカスタムプロフィール(現在のセッション中にのみ使用可能)をローカルライブラリに転送します。

# グループでの操作

smart:EQ 3の大きな特徴として、インテリジェントなクロスチャンネル処理によって最大6トラックの階層的な配置を簡単に作成できるグループビューがあります。



## どのように機能する？

異なるチャンネルにロードされたsmart:EQ 3の複数インスタンスは、互いに通信してデータを共有することができます。この複数のインスタンスを接続することで、最大6トラックまたはバスのスペクトルバランスグループを作成することができます。

グループが作成されると、smart:EQ 3は、マスキング効果を検出して修正するために、グループに追加されたすべてのトラックのスペクトル情報を結合します。スペクトルミキシング技術により、グループ化されたトラックは3レイヤーの階層に配置され、各トラックは透明な配置の中で割り当てられたスペースを得ることができます。新しいsmart:filterを計算する際に、乱雑で衝突しやすい周波数領域を避けることができます。

# グループ表示

## 1 グローバル学習(18ページ)

グループ全体の全てのインスタンスに対して学習処理を開始します。

## 2 グループインパクト

クロスチャネル処理の影響度をコントロールします。値が高いほど、クロスチャネル処理が全てのグループの計算されたsmart:filterに与える影響は大きくなります。

## 3 オン / オフ

クロスチャネル処理をオンオフできます。

## 4 全てをバイパスにする

グループ内のすべてのインスタンスをバイパスにして、簡単にA/Bリスニングができるようにします。

## 5 グループの分解

グループからすべてのインスタンスを削除します。すぐに現在のトラックのEQビューに戻ります。

## 6 グループビューを閉じる

EQビューに戻ります。



## 7 レイヤーコンテナ(17ページ)

異なるレイヤー(L1、L2、L3)にグループインスタンスを追加し、音の階層を作成します。

## 8 トラック情報ボックス(18ページ)

レイヤーコンテナ間でトラックをドラッグして、アレンジメントでの位置を決定します。トラック情報ボックスで、すべてのインスタンスをモニターすることができます。

## 9 フリーインスタンス

smart:EQ 3を搭載し、まだどのグループにも追加されていない全チャンネルリストです。インスタンスをレイヤーコンテナにドラッグすると、現在のグループに追加されます。

## 10 グループに割り当てられたインスタンス(16ページ)

既存の全てのグループとグループメンバーの一覧です。インスタンスをレイヤーコンテナにドラッグして、現在のグループに移動させることができます。

# 最初のグループを作成

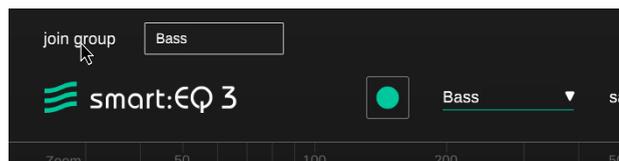


## ステップ1

グループに追加するすべてのチャンネル(最大6チャンネル)にsmart:EQ 3のインスタンスをロードします。

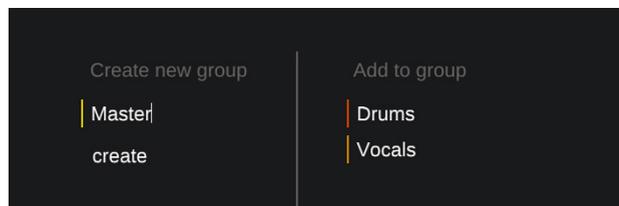
## ステップ2

先ほど作成したインスタンスのうち1つのGUIを開きます。



## ステップ3

「Join Group」をクリックすると、グループ作成画面が表示されます。

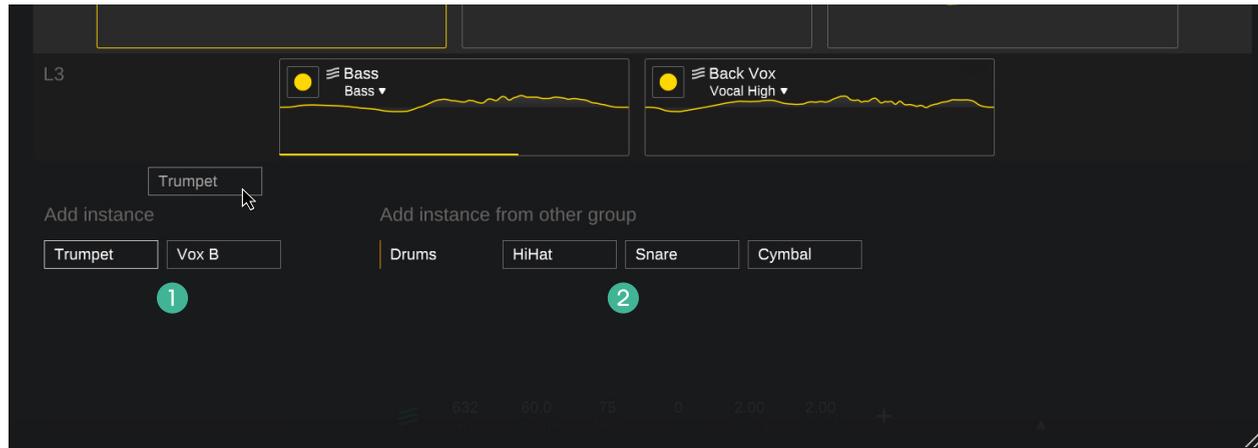


## ステップ4

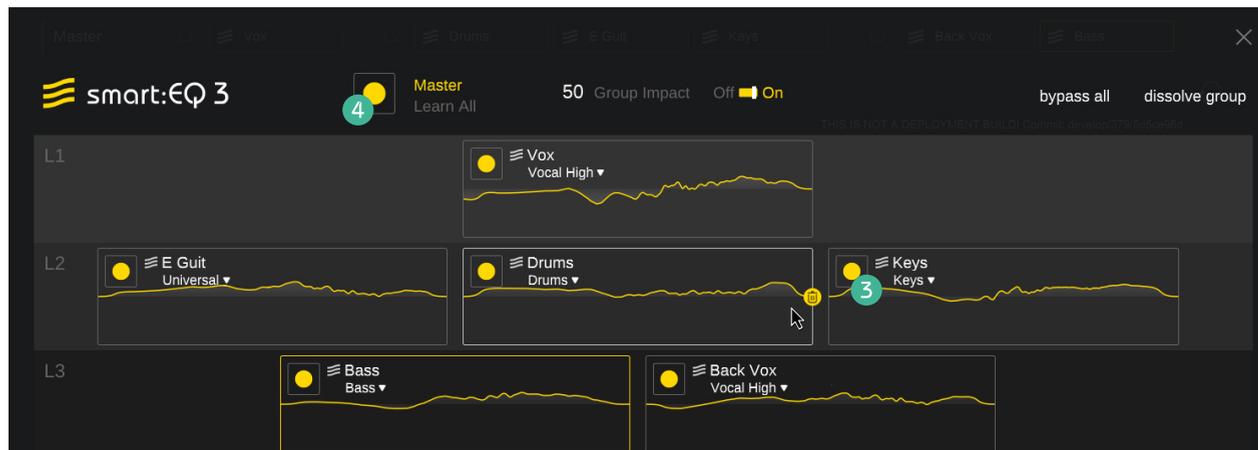
新しいグループの適切な名前を入力し、「create」をクリックします。

次のセクションでは、このグループに他のインスタンスを追加する方法と、3つの階層に配置する方法について説明します。

# インスタンスをグループに追加



トラックをグループに追加する方法は、新しいインスタンスを目的のレイヤーコンテナにドラッグ&ドロップするだけです。まだどのグループにも追加されていないインスタンスを追加することも、**①** 既存のグループから現在のグループにインスタンスを移動することもできます。**②** すべてのインスタンスは1つのグループにしか属さないため、この操作でインスタンスは元のグループから削除されます。



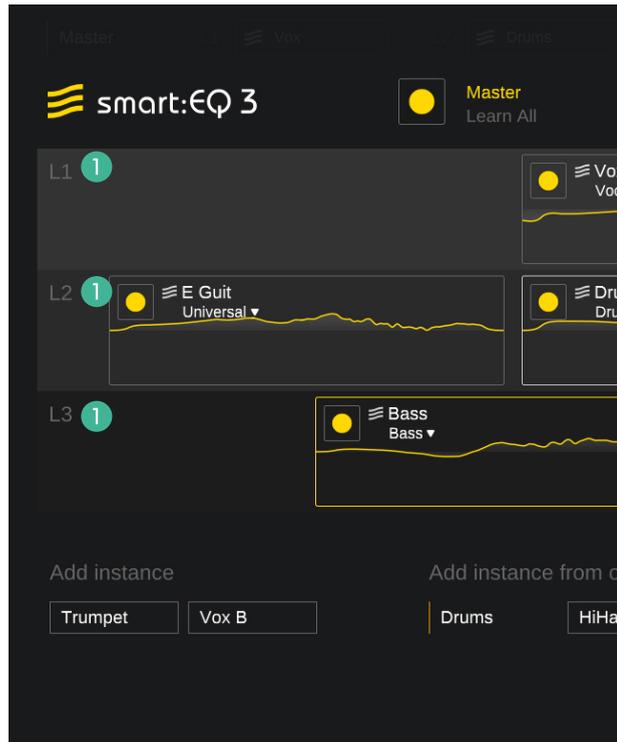
## クロスチャネル処理のアクティベート

クロスチャネル処理を行うには、グループ内のすべてのインスタンスを学習させる必要があります。トラック情報ボックスの中にある小さな録音ボタンでインスタンスを学習できます。**③**

学習済みのインスタンスをグループに追加すると、スペクトルバランスを確保するための処理が即座に更新されます。

「Learn all」ボタンをクリックして、グループ内の全てのインスタンスを一度に再学習させることができます。**④**

# レイヤーで階層を作る



3つのレイヤー(L1、L2、L3) ①により、グループのトラックに異なるミキシング優先順位を定義することができます。レイヤーの優先順位が高いほど、追加されたトラックはスペクトル内でより多くのスペースを持つことになります。例えば、smart:EQ 3は、各トラックのsmart:filterを計算する際にレイヤー1(L1)に追加されたトラックが、より低い優先順位のレイヤー(L2またはL3)に追加されたトラックによって隠れないようにします。

## L1:リード

smart:EQ 3が各トラックのsmart:filterを計算する際、レイヤー1が最も優先されます。このレイヤーは通常リードボーカルやリード楽器など、他のシグナルで隠されたくない場合に使用します。

## L2:サポート

L2のトラックは、他の全てのトラックと調和し、主要なトラックとのスペクトルの衝突が無い場合はリードとして機能することもできます。このレイヤーは通常、楽器やドラムの伴奏に使用します。

## L3:バックグラウンド

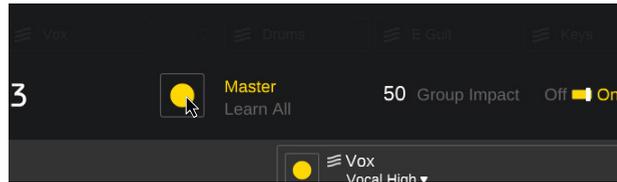
L3には、バックグラウンドで聞かれることを想定したトラックを入れましょう。L3のトラックはしっかりとした基礎を築きながらも、ミックスの中で突出することはありません。このレイヤーは通常、ボーカルのバックギンや楽器のバックギン、シンセサイザーのレイヤーに使用されます。



## レイヤーを入れ替える

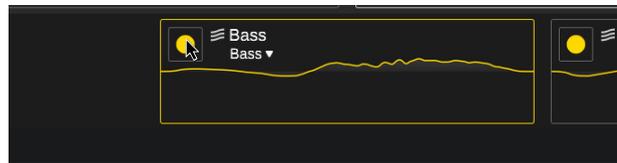
トラックの階層を変更するには、それぞれのトラック情報ボックスを目的のレイヤーコンテナにドラッグ&ドロップするだけです。これにより、グループ全てのsmart:filterがすぐに更新され、新しい階層がスペクトル構造に取り込まれます。

# 学習



## グループ全ての学習

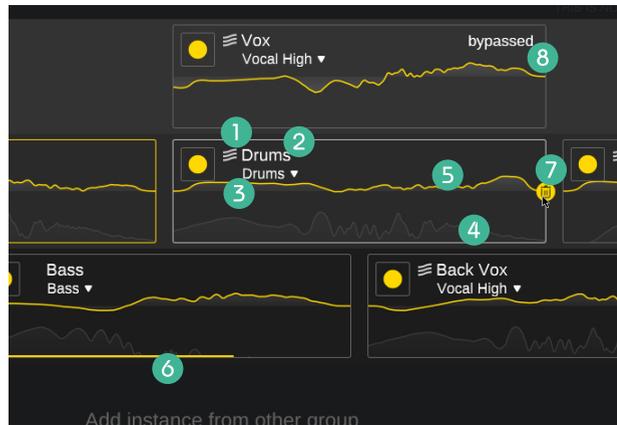
マスター学習ボタンを使って、グループの全インスタンスを一度に(再)学習することができます。smart:EQ 3は学習にオーディオ入力が必要なため、各インスタンスのオーディオ内容によって学習完了までの時間が異なる場合があります。



## 1つのグループの学習

各トラック情報ボックス内の小さな録音ボタンを使用すると、それぞれのインスタンスの新しい学習プロセスを開始することができます。学習プロセスの進行状況は、トラック情報ボックスの下部にある進捗バーで示されます。

# トラック情報ボックス



## 1 smart:EQ 3 ロゴ

このロゴは、smart:EQ 3がこのトラックのsmart-filterをすでに学習していることを示します。

## 2 トラック名

トラック名をダブルクリックすると変更できます。

## 3 プロファイルドロップダウン

各プロファイルの選択を表示し、変更することができます。

## 4 アナライザー

現在の出力スペクトルです。

## 5 フィルターカーブ

トラックに適用されるEQカーブです。

## 6 進捗バー

現在アクティブな学習プロセスの進行状況を示します。

## 7 ごみ箱

現在のグループからトラックを削除します。ホバー時のみ表示されます。

## 8 バイパスワーニング

インスタンスの全てのバンドまたはsmart-filterがバイパスされることを示します。

# ビジュアルコントロール&モニタリング



## A レイヤーの概要

音の階層におけるグループメンバーの配置を素早く変更するには、レイヤーオーバービューを使用します。グループメンバーを追加/削除するには、グループビューに切り替えてください(14ページ参照)。

## 1 名前

インスタンスの名前です。一部のDAWでは、この名前はインスタンスが配置されているチャンネルの名前と自動的に一致します。名前を変更するには、名称をダブルクリックします。

注意:各インスタンスに名前を付けることを強くおすすめします。そうしないと、グループビューで全てのインスタンスを把握することが難しくなることがあります。

## 2 smart:EQ 3 ロゴ

このロゴは、smart:EQ 3がこのトラックをすでに学習していることを示します。

## 3 進捗バー

現在アクティブな学習プロセスの進行状況を示します。

## B プレジジョンモード

Y軸(ゲイン値)を拡大するには、ドロップダウンで適切なゲイン範囲(24dB、12dB、6dB)を選択します。これはより正確な処理を行うための視覚的な補助に過ぎず、処理に何ら影響を与えないことに注意してください。

## C バイパス&リセット

バイパスボタンとリセットボタンには、異なるモードを使用することができます。それぞれのボタンの下にある現在アクティブなモード(例:all)をクリックして、モードを変更します。

**all** プラグイン全体のバイパスまたはリセット

**standard** すべての標準フィルターをバイパスまたはリセット

**smart** smart:filterのバイパスまたはリセット

# アナライザー

## 1 アナライザー

クリックでスペクトルアナライザーのオンオフを切り替えます。右クリックでアナライザーウィジェットを開きます。

### ソース

現在選択されているsmart:EQ 3のインスタンスがグループの一部である場合、グループのメンバーごとに色分けされたリアルタイムスペクトルを表示することが可能です。インスタンスの名前をクリックすると、インスタンスのオンオフを切り替えることができます。

## 2 アナライザーウィジェット

アナライザーのオンオフボタンを右クリックして、アナライザーウィジェットにアクセスします。

### モード

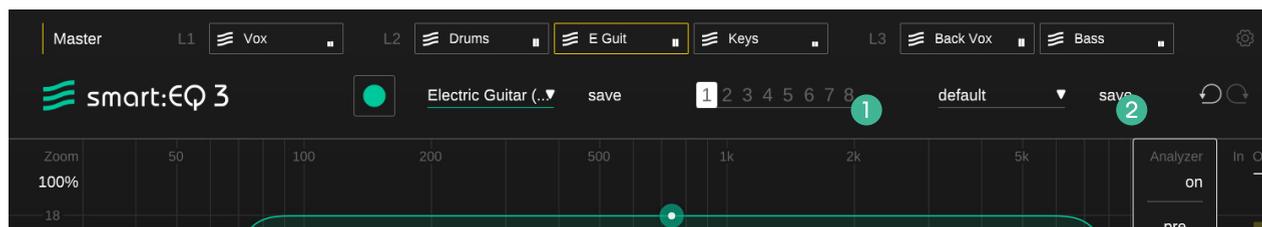
アナライザーのモードを、「pre(プリフィルタ)」、「post(ポストフィルタ)」、「both(プリ&ポスト)」、「off(オフ)」に切り替えます。

### スピード

アナライザーの波形の振る舞いを「slow」「medium」「fast」「avg(平均値)」の間で変更します。「avg」を有効にすると、アナライザーは全観測期間の平均スペクトルを計算するようになります。



# ステートとプリセット



## 1 ステート

ステートを使って、複数のパラメータ設定を保存することができます。ステートを使用すると、異なる設定を簡単に比較したり(多くのプラグインにあるA/B機能に似ています)、曲の異なるセクションのために複数のsmart:filterを保存したりすることができます。

### ステートの連携

1. 各ステートは、初期は空の状態です (smart:EQ 3のデフォルトのパラメータ設定)。
2. それぞれのステートボタンをクリックして、ステートを選択します。
3. ドラッグ&ドロップで、あるステートを別のステートに簡単にコピーすることができます。これは、ある設定に異なる変更を加えて比較したい場合に便利です。
4. ステートをクリアするには、数字の上にカーソルを合わせ、下に表示されるごみ箱アイコンをクリックします。

## 2 プリセット

プリセットは全てのパラメータ設定を保存し、すべてのプラグインインスタンスからアクセスすることができます。

- パラメータ設定をプリセットとして保存するには、プリセットドロップダウンの横にある「save」をクリックします。
- 保存したプリセットを読み込むには、ドロップダウンからそれぞれのプリセット名を選択します。
- プリセットの削除や名前の変更は、ローカルのファイルエクスプローラーでプリセットフォルダに移動して行います。

異なるワークステーション間でプリセットを簡単に共有することができます。すべてのプリセットは、以下のフォルダに拡張子「.spr」で保存されます。

### プリセットフォルダ

OSX:  
~/Library/Audio/Presets/sonible/smartEQ3

Windows:  
My Documents\Presets\sonible\smartEQ3

# M/S処理と出力



smart:EQ 3は、フルM/Sプロセッシングが可能です。各フィルターは、ステレオ、ミッド、サイドのいずれかのモードで使用することができます。さらに出力セクションには、M/Sバランスとサイドパンスライダーを使用してステレオイメージをコントロールするユニークなツールがあります。なお、これらのスライダーは、すべてのフィルターがステレオモードに設定されている場合でも使用可能です。

## ① M/Sバランス

ステレオ出力におけるミッド信号とサイド信号の関係を自由に調整できるM/Sバランススライダー

を搭載しています。コントローラーを使用することで、簡単に録音時の開放感を調整したり(例：サイド信号を増やすとアンビエント成分が全てブーストされる)、ミックスを「引き締める」(例：ミッド信号を増やすとダイレクト成分や相関性が高まる)ために使用します。

## ② サイドパン

サイドパンのスライダーで、サイド信号をステレオの左チャンネルまたは右チャンネルにパンニングすることができます。こうすることで、ステレオトラックのアンビエント成分(サイド信号)を、安定

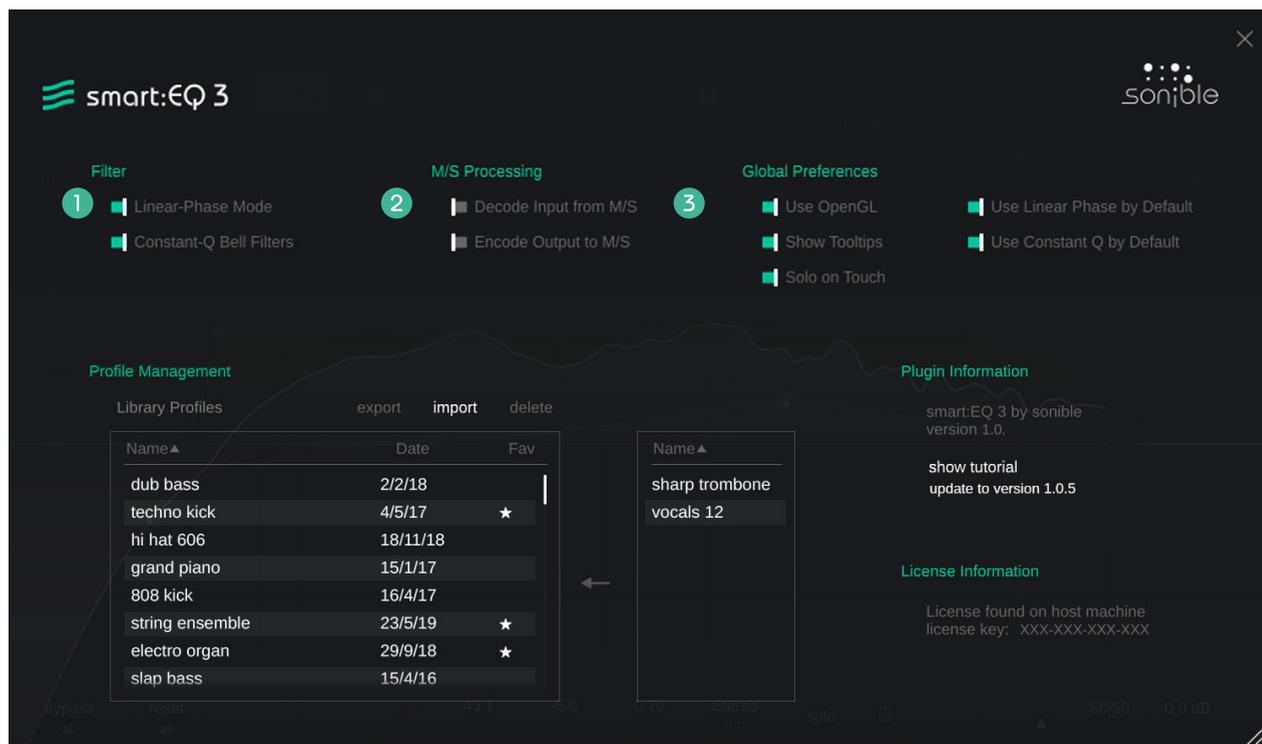
したセンター(ミッド信号)に影響を与えずにパンニングすることができます。

ミッドまたはサイドのセクションをクリックすると、それぞれの信号コンポーネントをソロにすることができます。

## M/S入力 or 出力

smart:EQ 3をM/Sエンコーダー/デコーダーとして使用することができます。設定ページ(23ページ参照)で、プラグインの入出力フォーマット(M/Sまたはステレオ)を定義することができます。

# 設定



設定ページを表示するには、プラグインの右上にある小さな歯車アイコンをクリックします。

## 1 フィルター設定

### コンスタントQベルフィルター

負のゲイン値の場合に、より急なノッチが得られます。

### リニアフェイズモード

リニアフェイズモードでは、処理遅延が発生しますが、位相の歪みは発生しません。ポストプロダ

クションで複雑なシグナルを扱う際、位相の問題を回避するためにこのモードを使用することができます。

## 2 M/S設定

### M/Sからの入力をデコードする

有効にすると、プラグインはM/S入力シグナル(通常のステレオトラックではありません)を要求します。

### M/Sからの入力をエンコードする

有効にすると、プラグインはM/Sシグナル(通常のステレオトラックではありません)を出力します。

## 3 グローバル環境設定

これらの設定は、デフォルトでsmart:EQ 3の新しいインスタンス全てに適用されます。

### OpenGLを使用

OpenGLは、特定のコンピューターハードウェアでレンダリングの問題を引き起こす可能性があります。このオプションを使用してOpenGLを無効にします。

### ツールチップを表示

ホバー時のツールチップオンオフを設定します。

### ソロオンタッチ

この設定を有効にすると、現在作業しているフィルターバンドをソロで再生できます。

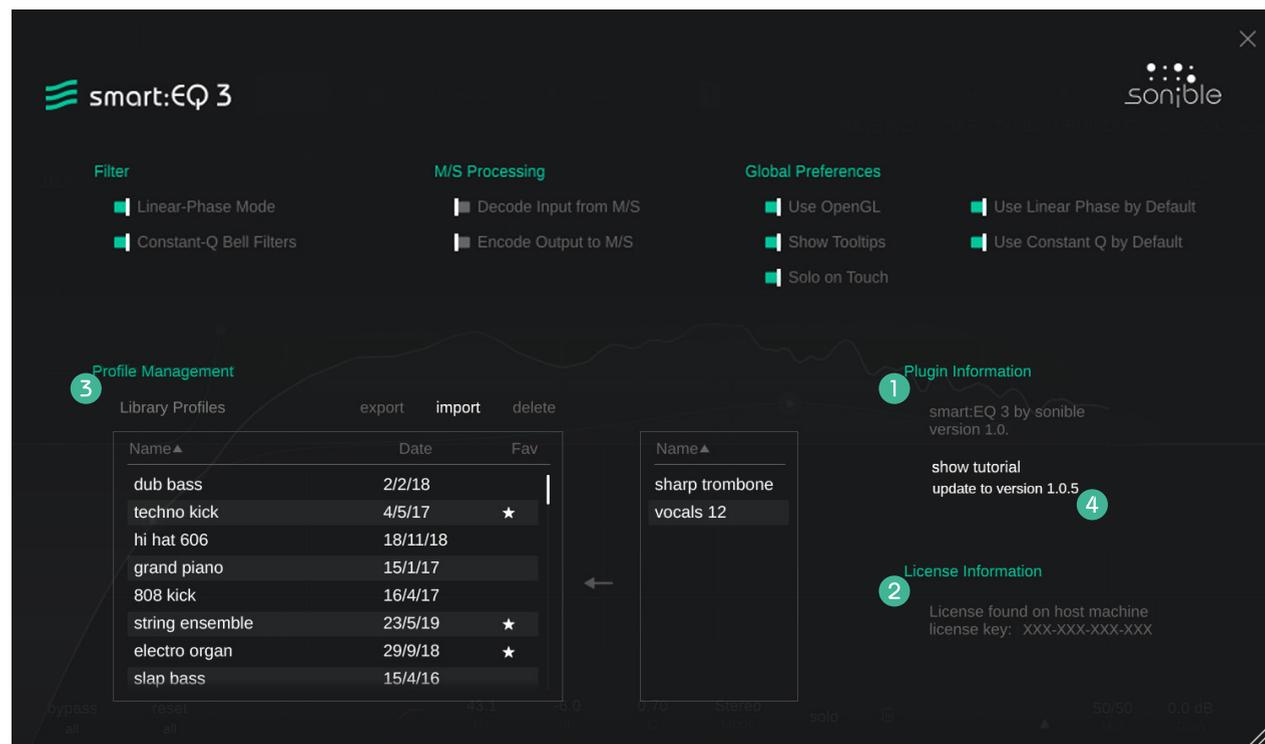
### デフォルトでコンスタントQを使用

新しいsmart:EQ 3インスタンスごとに「コンスタントQベルフィルター」を自動的に有効にします。

### デフォルトでリニアフェイズを使用

新しいsmart:EQ 3インスタンスごとにリニアフェイズモードを自動的に有効にします。

# プロファイル管理およびライセンス



## 1 プラグイン情報

プラグインの名前とバージョンを確認し、最新の利用可能な更新プログラムを検索します。「show tutorial」をクリックすると、ウェルカムツアー(プラグインの機能を簡単に説明するツアー)を再開できます。

## 2 ライセンス情報

ライセンスの状態とナンバーを確認します(iLokを介してライセンスを取得していない場合)。

## 3 プロファイル管理

カスタムプロファイルを管理します。詳しくは12ページをご覧ください。

## 4 更新のお知らせ

プラグインの新しいアップデートが提供されると、smart:EQ 3の設定ページに通知が表示されます。青いラベルをクリックすると、プラグインの最新版をダウンロードできます。



# smart:EQ 3

[www.sonible.com/smartEQ3](http://www.sonible.com/smartEQ3)

すべての仕様は、予告なく変更されることがあります。

©2021, sonible GmbH. すべての権利を保有します。オーストリアの sonible社によって設計・デザインされました。